

STRICTLY CONFIDENTIAL

貴社限り

ICT（情報通信技術）を活用したビジネスコンテスト

X-Tech Innovation 2018 の 開催に向けたご案内

～ Change from the local, Everything starts from here. ～

2018年 7月

株式会社 沖縄銀行

X-Tech Innovation 2018 の開催について

- ICT（情報通信技術）を活用したビジネスコンテスト「X-Tech Innovation」を今年度も開催いたします。

X-Tech Innovationについて

ICT（情報通信技術）の急速な進展を背景に、スタートアップ※が持つ優れた技術・アイデアを発掘し、貴社を始めとしたお取引先各社とスタートアップ企業の紹介・マッチングの場をご提供することで、地域経済の活性化に寄与することを目的に開催するビジネスコンテストです。沖縄銀行は2017年度から参加し、2018年度で二回目開催となります（2015年度が福岡銀行様にて初回開催）

★ 昨年度の最終選考（ピッチコンテスト）の様子 ★



※ スタートアップ・・・

→ 今までにないイノベーションを通じて、人々の生活と世の中を変える事を目指し、新しいビジネスモデルを開発して、ごく短期間で急激な成長を行う集団、企業

X-Tech Innovation 2017 各地区最終選考（ピッチコンテスト）の結果

- 2017年度は「オープン/参加型」をコンセプトに、これまでクローズドだった最終選考会の一般観覧及び、観覧者の審査への参加を行った。
- その結果、福岡地区では、来場者数が約270名と過去最高を記録。沖縄会場、北海道会場も満席近い動員を行う等大きな盛り上がりを見せた。

■ 最終選考（ピッチコンテスト）開催概要

開催地区	九州地区	沖縄地区	北海道地区
開催日	2018年1月23日（火）	2018年1月27日（土）	2018年1月30日（火）
場 所	FFGホール	TOYOPLA	札幌ビューホテル大通公園
内 容	▶ピッチコンテスト ▶パネルディスカッション ▶ネットワーキング(懇親会)	▶ピッチコンテスト ▶講演 ▶ネットワーキング(懇親会)	▶ピッチコンテスト ▶講演 ▶ネットワーキング(懇親会)

■ 最終選考（ピッチコンテスト）進出企業一覧

	受賞	企業/団体名	サービス概要
九州地区	最優秀賞	リーウェイズ	▶人工知能による不動産取引プラットフォーム「Gate.」
	優秀賞	マチマチ	▶近所のつながりをテクノロジーで作る「近所SNSマチマチ」
	優秀賞	ユニバーサル・サウンド・デザイン	▶高齢化における音のユニバーサルデザインの必要性
沖縄地区	最優秀賞	サインポスト	▶商品認識にディープラーニング技術を応用したAIREジ
	優秀賞	オキナワアイオー	▶沖縄の模合で、みんなで資産運用ができる仕組みを作る。
	優秀賞	沖縄ツーリスト	▶スマイルタグ ～沖縄観光ビジネスとNFCリストバンド～
北海道地区	最優秀賞	トリプル・ダブリュー・ジャパン	▶世界初、排泄予知ウェアラブル「DFree」
	優秀賞	バーナードソフト	▶「AI」による音の監視システム「S-kaleid(エスカレイド)」
	優秀賞	thee moment	▶「UNLOCKS」で便利で遊べる様々なマップを持ち歩こう

■ 結果発表（プレスリリース）

株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ

〒810-8693 福岡市中央区大手門 1-8-3 TEL 092-723-2500（代表）

http://www.fukuoka-fg.com/

News Release

平成30年1月25日

ICT（情報通信技術）を活用したビジネスコンテスト X-Tech Innovation 2017 受賞者決定のお知らせ

株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ（代表取締役社長 柴戸 隆成、以下：FFG）は、株式会社 北海道銀行（頭取 笹原 晶博）、株式会社 沖縄銀行（頭取 玉城 義昭）と共同開催中のビジネスコンテスト「X-Tech Innovation 2017」につきまして、九州地区におけるピッチバトル（最終選考会）の受賞者が決定しましたので、お知らせ致します。

今年度は3地区合計で約80件の応募があり、1次選考（書類）⇒2次選考（面接）を経て選出された12先によるピッチバトルの結果、人工知能不動産分析プラットフォーム「Gate.」を選出するリーウェイズ 株式会社（代表取締役社長 巻口 成恵）が九州地区の最優秀賞に選出されました。尚、2月13日（火）には、各地区の受賞者による交流会（受賞者限定のマッチングイベント）を東京・八重洲（@DIAGONAL RUN TOKYO）にて開催致します。

FFGでは今後もICTを活用した先進サービス・アイデアの事業化支援や、大手企業とスタートアップ企業のマッチング機会の提供等を通じて、オープンイノベーションの促進に取り組んでまいります。

X-Tech Innovation 2017 の概要 / 九州地区の受賞者

開催目的	① ICTを活用した各種サービスの革新 ② 大手企業（ビジネスパートナー）と新しい技術・ビジネスアイデアを持つスタートアップ企業とのマッチング支援 ③ 上記①・②を通じた地域経済の発展・活性化への貢献
募集テーマ	共通テーマ 「IoT」 九州地区テーマ 「アナログシニア」
受賞者（九州地区）	最優秀賞 優秀賞 優秀賞

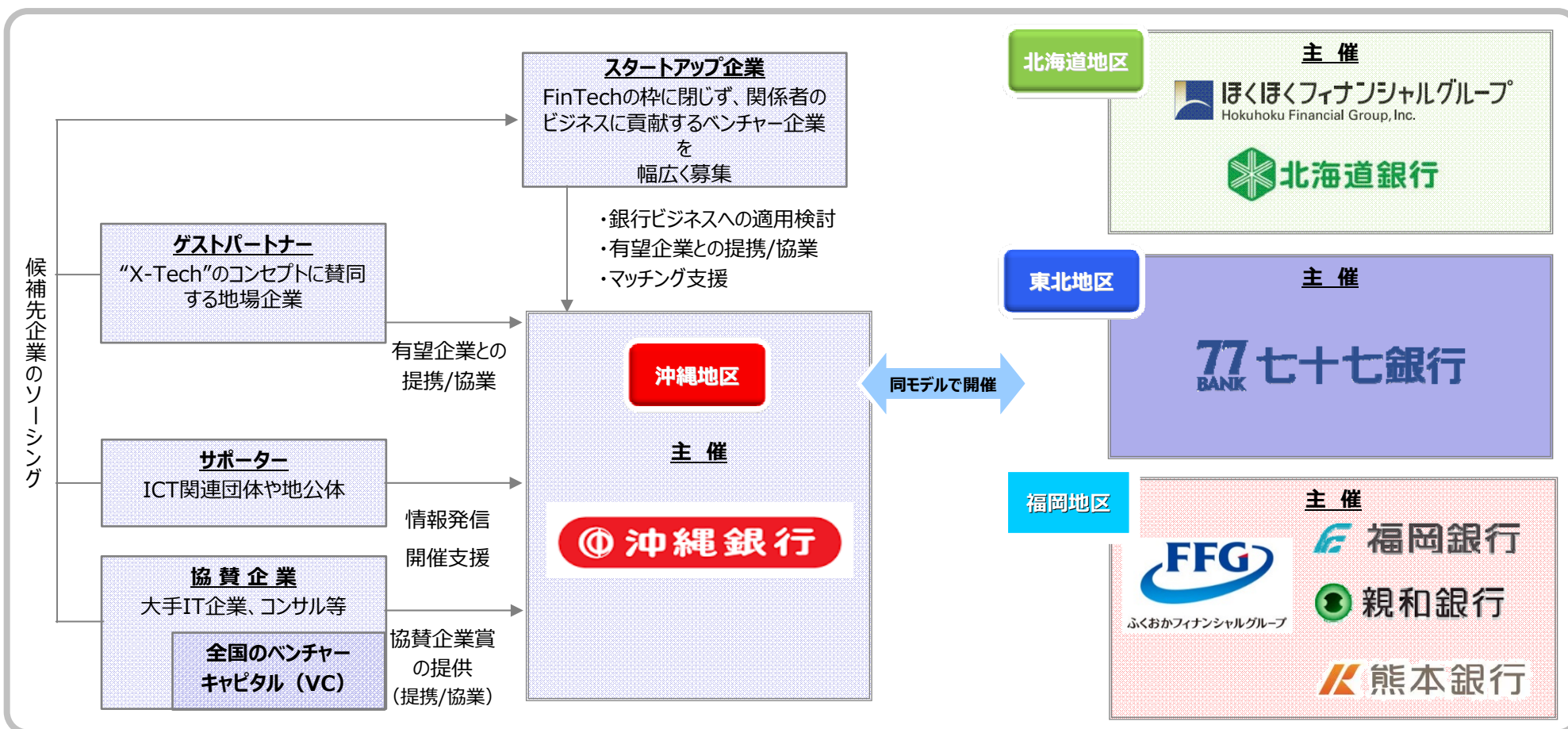
《本件に関するお問合せ先》

ふくおかフィナンシャルグループ X-Tech Innovation 事務局
 (DIAGONAL RUN TOKYO 内 / 担当：福永・近藤 / TEL：03-6262-7515)

X-Tech Innovation 2018 ビジネスコンテストの全体像 ～ 地域を越えた新たな枠組みの構築 ～

- 今年度は、昨年度共同開催した北海道銀行、福岡銀行に加えて七十七銀行が加わり、九州(福岡)・北海道(札幌)・東北(仙台)・沖縄の4地域を軸とした日本を縦断する地域共創型のイベントとして、地域や既存の枠組みを越えた新たなネットワークの構築、オープンイノベーションの実現を目指します。

『X-Tech Innovation 2018』の全体図



X-Tech Innovation 2018 基本コンセプト

- 金融（Finance）領域に捉われない業界・業種横断型のビジネスコンテストです。【X-Techの概念／昨年同様】
- 今年度のサブタイトルは、「Change from the local, Everything starts from here.」



“X-Tech” とは、金融（Finance）領域にとどまることなく、様々な業界・業種を横断したデジタルテクノロジーの活用により、日常生活におけるサービスや、ビジネスシーンにおいてイノベーションを起こす取組みをイメージした造語

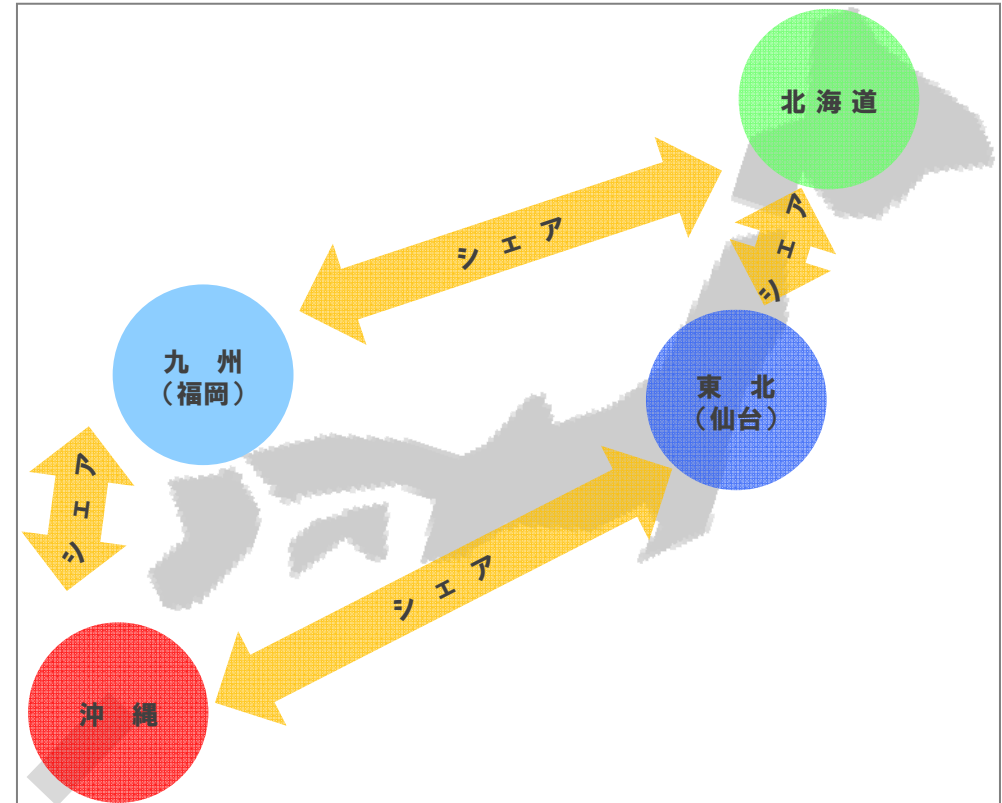
様々な業界・業種を横断したマッチング機会の提供

【デジタルテクノロジーを活用したキーワード（各業界・業種）】



New!

“地域”が抱える課題解決のため“地域”を越えて課題を共有



X-Tech Innovation 2018 募集テーマの設定

- 業界・業種横断型のビジネスコンテストとして、金融（Finance）領域に捉われないテーマを設定します。
- 共通テーマに加え、「九州（福岡）」、「北海道」、「東北」、「沖縄」それぞれの独自テーマを設定し、地域が抱える関心や課題を解決するアイデア・サービスを広く募集します。

九州
(福岡)

「API」で広がる共創ビジネス

金融界で整備が進むAPI（オープンAPI）を通じたサービスの高度化。しかしながら、APIの利活用は金融に限ったキーワードではなく、あらゆる産業、事業、サービスが繋がることで、新たな価値を共創する可能性を秘めています。様々なAPIを活用して広がるサービス、ビジネスのアイデアを募集します。

北海道

「観光」「食」

北海道に根差した産業である「観光」及び「食」をテーマに、ビジネスを加速させるIoT、テクノロジーを活用したアイデア、サービスを募集します。

「Local × Tech = LocaTech（ロカテック）」

地域・地方にこそ、デジタルによる変革（デジタル・トランスフォーメーション）が求められています。少子高齢化による労働人口の減少や過疎化が進む今、生産性の向上は地域が抱える喫緊の課題です。デジタルを活用することで、限られた労働力をカバーし、魅力ある地域資源の付加価値向上に資する新しいサービス、ビジネスのアイデアを募集します。

東北

“東北の魅力”×“IT”

創業140周年を契機として、東北地方の豊かな自然や食材のほか、観光や史跡などのさまざまな“東北の魅力”と“IT”を掛け合わせ、テクノロジーを活用した地方発のアイデア・イノベーションを募集します。

沖縄

沖縄を楽しく!簡単・便利・安心

デジタルトランスフォーメーションで新しい未来を！テクノロジーと新しいビジネスで沖縄をもっと楽しく！！定住者（個人・法人）、国内外の観光客向けを問わず利用者が楽しくなるようなアイデア、サービスを幅広く募集します。

X-Tech Innovation 2018 開催概要 (現時点における計画)

- 現時点で、以下の概要による開催を予定しています。
- 2018年7月2日にプレスリリースを行い、参加申込者の募集を開始いたしました。

項目	内容
コンテスト名称	▶ X-Tech Innovation 2018 ～ Change from the local, Everything starts from here. ～
開催目的 (狙い)	① ICTを活用した既存金融サービスの革新（協業・事業化） ② 既存企業（ビジネスパートナー）と新しい技術・ビジネスアイデアを持つスタートアップ企業とのマッチング支援 ③ 上記①・②を通じた地域経済の発展・活性化への貢献
主催	【主催】ふくおかフィナンシャルグループ 【共催】趣旨に賛同する地銀（北海道銀行・沖縄銀行・七十七銀行）
テーマ（案）	【テーマ①】…共通 『Local × Tech = LocaTech（ロカテック）』 【テーマ②】…九州・福岡独自 「API」で広がる共創ビジネス 【テーマ③】…北海道独自 「観光」「食」（3年連続同テーマ） 【テーマ④】…東北独自 “東北の魅力”×“IT” 【テーマ⑤】…沖縄独自 沖縄を楽しく！簡単・オトク・安心
参加資格	▶ 主たる事業所が日本にある法人、団体または個人 ⇒ 九州、北海道、東北、沖縄のスタートアップ企業を中心に声かけ ▶ 昨年度応募企業も再応募可能
ゲストパートナー	▶ “X-Tech”のコンセプトに合った地場企業で、新たな事業やサービスの創出に意欲的な企業さま
協賛企業	▶ ITベンダーやデジタルサービスを提供する企業さま
サポーター	▶ ICT関連団体や地方自治体（県・市）

New! 項目	内容
ピッチバトル	最終選考を兼ねたイベントを開催 ▶ 日 時：12月4日・6日・13日・18日 PM ▶ 場 所：福岡・北海道・東北・沖縄 @FFGホール・札幌プリンスホテル・ホテルメトロポリタン仙台 琉球新報ホール ▶ 内 容：① 最終選考合格者によるデモ、プレゼン ② 表彰式 ③ 参加者懇親会（ネットワーキング：交流会） ▶ 審査員：銀行役員、外部専門家（予定） ▶ 観覧者：招待者に加え、一般観覧も可能
New! 表彰・特典	▶ 最終選考（ピッチバトル）を各エリアでそれぞれ開催 ・賞金総額100万円を、バトルの投票数※に応じて比例配分 ※ 観覧者による投票システムを採用 + 上記に加えて…下記賞金を上乗せ ▶ 最優秀賞+50万円（前年比+20万円）×1 ▶ 優秀賞+10万円×2 ▶ その他、協賛企業賞を授与
マッチングイベント	▶ 各地域での受賞者を対象としたネットワーキングイベント ▶ ゲストパートナーさま、協賛企業さまにもお声かけ
PR活動	▶ プレスリリース実施後、積極的にパブリシティを活用 ▶ イベント専用webサイトの構築（応募受付含む） ▶ 各種・各地関連イベント等への参加による情宣活動 ▶ 協賛企業各社の自社リソースを活用したPR（ご相談）etc.

X-Tech Innovation 2018 実施スケジュールと貴社参画のイメージ (現時点における計画)

- コンテストの企画・開催運営はFFG/北海道銀行/七十七銀行/沖縄銀行にて実施いたします。貴社には、ビジネスコンテストへのご参加を通じて、スタートアップ企業の発掘や事業化等に向けた検討のきっかけ作りのお場をご提供いたします。

スケジュール		FFG/北海道BK/七十七BK/沖縄BK	貴 社
● 7/2	プレスリリース ゲストパートナー企業さま、 協賛企業さま、サポーターさまへのご提案	☐ プレスリリース実施 ☐ コンテスト参加企業の応募受付開始 ☐ スタートアップへの参加呼び掛け ☐ 関係企業各社への取組み紹介 ☐ 本取組みへの参画意向のご確認	☐ 参画可否の貴社内ご検討・承認 (ご回答) ⇒ ご回答いただき次第ご対応させていただきます ☐ 自社媒体 (web) での参加告知 ☐ リレーションのある企業 (スタートアップ) への参加呼び掛け
● 8月末	参加企業募集の締切	☐ 応募企業取り纏め・リスト化	☐ -
● 9月上旬	1次選考 (書類)	☐ 書類による審査 ☐ 審査結果の協賛企業への共有	☐ -
● 10月下旬	2次選考 (面談)	☐ 面談による審査 ☐ 審査結果の協賛企業への共有	☐ -
● 12月上旬	最終選考 (ピッチコンテスト) ネットワーキング@福岡/北海道/東北/沖縄	☐ ピッチコンテストの準備・運営 ☐ ピッチ (プレゼン) による最終審査	☐ ピッチコンテスト (懇親会) へのご参加 ☐ 参加者とのネットワーク構築
● 翌1月中旬	マッチングイベント@東京 活用に向けたディスカッション	☐ 受賞企業を対象としたイベント開催 ☐ 事業化に向けたディスカッション	☐ ネットワーキングイベントへのご参加 ☐ 受賞企業とのリレーション基盤構築 ⇒ 事業化・業務提携等の検討

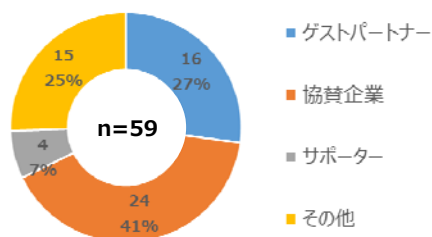
ご 参 考

 クロステックイノベーション
-Tech Innovation 2017
情報通信技術（ICT）を活用したビジネスコンテスト

X-Tech Innovation 2017 アンケート集計結果

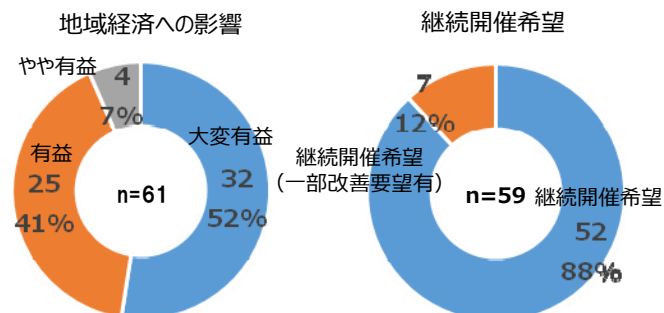
- 最終選考（ピッチコンテスト）の来場者に対して実施したアンケート結果は以下の通りです。
- コンテストの開催自体に対しては、高い評価を受けることができました。ゲストパートナー、協賛企業からは**マッチング**を期待するとの要望が上がっています。
- 来場者からの登壇企業への関心は高く、テーマについても幅広く注目を集めました。「**地域貢献度が高い**」「**登壇企業への面談を望む**」との反応も多数ありました。

■ 回答者属性



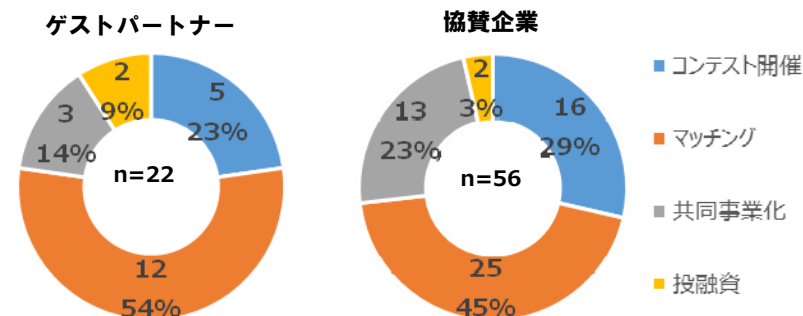
- ▶ 総回答数は59件
- ▶ ゲストパートナー+協賛企業が回答者の約7割を占めました。

■ コンテスト評価



- ▶ 回答のほぼ全てが「**地域経済に対して有益**」、「**継続開催を希望する**」との回答であり、高評価を獲得しました。
- ▶ テーマ、プレゼン時間等へ一部要望がありました。

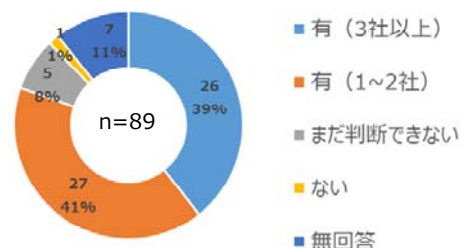
■ FFGへの期待



- ▶ **ゲストパートナー、協賛企業共に**、「コンテスト開催」、「マッチング」への期待が大半であり、情報収集機会、ビジネスへの展開を望む傾向がありました。

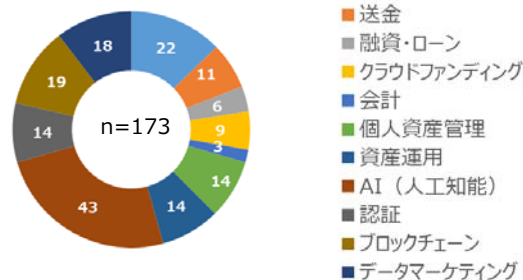
■ 来場者からの反応

興味のある企業



- ▶ 回答者の**約8割**が何らかの企業・技術・アイデアに対して関心を示すという結果となりました。

興味のあるテーマ



- ▶ 業界横断的には「AI (人工知能)」、「決済」へ注目が集まりました。

■ 来場者の声 (一部抜粋)

- ▶ 福岡のベンチャーをもっと見たかった。 (協賛企業)
- ▶ 一般参加者からも質問をさせて欲しい (無記名)
- ▶ 銀行は登壇企業のサービスをすぐに導入した方が良い。 (無記名)
- ▶ 興味がある企業のプレゼンは短く感じた。もう少しプレゼン時間が長くて良いのではないかと思った。 (無記名)

読売新聞

新興企業の知恵募る

オープンイノベーション



新興企業などを対象に、ふくおかフィナンシャルグループが開いたコンテストの様子（今年2月、福岡市で）

外部の知恵やノウハウを借りて新たな事業を創出する「オープンイノベーション」は、九州の主要企業にも広がってきた。情報技術（IT）分野で優れた新興企業をコンテスト形式で選ぶ動きが自発。自前主義を脱してビジネスチャンスを見いだす、成長につながる。（井上恵明）

■脱自前主義

ふくおかフィナンシャルグループは、今年度から「新事業創出コンテスト」を開催し、活用した新サービスを表彰するコンテスト「クロステック・イノベーション」を開催している。昨年度は主催者に北海道銀行が加わり、今年度は沖縄銀行も入った。今回の募集期間は10月25

日までで、初参加の沖縄銀行は「応募の中から具体的な取り組みにつながるものを見つけた」と期待する。九州電力も8月28日から今月8日まで、オープンイノベーションを仲介する「Crew（クルー）」と提携し、新規事業に結びつく独自のアイデアを新興企業から募集した。自田化など経営環境が変化する中、「グループ内で事業を完結する」自前主義から脱却し、新たな成長の種を見いだす必要がある（瓜生道明社長）。

九電は今後、提案を精査する。昨年12月から同様の募集を行ってきた西日本鉄道は、応募があった48件の中から、1件を使った荷物収納サービスなど7件を選

んだ。新興企業と組む、事業改革のスピードを上げる狙いがある。一方、新興企業にとって、提携相手に選ばれる手による実績づくりや知名度向上、資金面など、様々なビジネスの芽を待つ起業の促進も引き続き期待できる利点がある。今後は、地場大企業になりきった

九州主要企業、事業化へ

外部の知恵やノウハウを借りて新たな事業を創出する「オープンイノベーション」は、九州の主要企業にも広がってきた。情報技術（IT）分野で優れた新興企業をコンテスト形式で選ぶ動きが自発。自前主義を脱してビジネスチャンスを見いだす、成長につながる。（井上恵明）

■世界的な潮流

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が事務局を務める「オープンイノベーション・ベンチャー創出協議会」（川崎市）によると、大手企業と新興企業のオープンイノベーションは近年、「世界的な潮流」として急速に拡大している。国内の大手企業では今月

だけでも、凸版印刷（東京）や日本郵便（同）がそれぞれ新サービスを発表。凸版印刷は、記録の動きが激しい九州を対象エリアとして、地域活性化に貢献する案件を全国から募っており「優れた提案は共同での事業化を検討する」方針だ。大手企業がオープンイノベーションに力を入れるのは、「IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）」を含め先端技術の進化が加速する中、自社では追いつけない斬新なアイデアやノウハウを持つ新興企業と組む、事業改革のスピードを上げる狙いがある。一方、新興企業にとって、提携相手に選ばれる手による実績づくりや知名度向上、資金面など、様々なビジネスの芽を待つ起業の促進も引き続き期待できる利点がある。今後は、地場大企業になりきった

日刊工業新聞

ICT活用で
ビジコン開催
ふくおかFG

【福岡】ふくおかフィナンシャルグループは、北海道銀行、沖縄銀行と共同でビジネスコンテスト「クロステック・イノベーション2017」を開催する。17回を開催する。情報通信技術（ICT）を生かしたサービスやアイデアを募集、表彰する。地方創生の取り組みの一環。地域を越えたネットワーク構築やオープンイノベーションの実現を目指す。

今回で3回目。募集の共通テーマは「IoT（すべてのインターネット）。地区テーマも設け、九州は「アナログシニア」、沖縄は「沖縄を魅力的にするサービス」、北海道は「観光・食」とする。募集は10月25日まで。

熊本日日新聞

沖縄銀参加しスケールアップ

ふくおかFG 地区別に個別課題

ふくおかフィナンシャルグループは、次世代の産業振興策として、ICTを活用したスタートアップ企業を対象にしたビジネスコンテスト「クロステック・イノベーション」を開催する。共催テーマに「IoT」を掲げる。

「IoT」テーマにコンテスト
ふくおかFGは、次世代の産業振興策として、ICTを活用したスタートアップ企業を対象にしたビジネスコンテスト「クロステック・イノベーション」を開催する。共催テーマに「IoT」を掲げる。

募集は10月25日まで。今年度は、九州、沖縄、北海道の3地区でコンテストを開催。応募企業は地域の課題に

西日本新聞

ICT活用ビジネス
FFGがコンテスト
ふくおかフィナンシャル
グループ（FFG）は23日、
情報通信技術（ICT）を
活用したビジネスのコンテ
スト「クロステック・イ
ノベーション」の九
州地区の最終選考会を福岡
市で開いた。不動産投資に
関する情報サービスを手掛
けるリウエイズ（東京）
が最優秀賞に選ばれた。写
真。

本年度で3回目、前年度
の北海道銀行に加えて今回
は沖縄銀行も主催に加わ
り、3地区で開催した九州
地区は2社の応募があり、
書類と面接の審査を通過し
た12社が最終選考会で事業
のポイントを発表した。

リウエイズは人工知能
を活用し不動産の収益予
測を導き出すシステムを開
発。巻口成繁CEOは「不動
産の情報を透明化してく
てやってきたビジネスが実を
結んだ」と語った。（石田剛

日経

不動産にAI
最優秀賞に選出
ふくおかFG
ふくおかフィナンシャル
グループ（FFG）は23
日、テクノロジーを活用
した事業アイデアを募る
ビジネスコンテストの最
終選考会を開いた。スタ
ートアップ12社が発表。
最優秀賞には人工知能
（AI）を用いた投資不
動産の利回り予測システ
ムを開発するリウエイ
ズ（東京・渋谷）が選出
された。今後、事業化に
向けた協業などを検討す
る可能性があるという。
優秀賞には地域限定型
交流サイト（SNS）を
運営するマチマチ（同・
目黒）、難聴者向けスピ
ーカーを開発販売するユ
ニバーサル・サウンドデ
ザイン（同・港）が選ば
れた。

読売

情報通信技術
アイデア競う
九州地区コンテスト
ふくおかフィナンシャル
グループ（FFG）などは23
日、情報通信技術（ICT）
を活用した事業アイデア
を競うコンテスト「クロス
テック・イノベーション」
の九州地区最終選考会を、
福岡市で開いた。
事前の審査を通過した新
興企業など12組が登場して
サービス説明。最優秀賞
には、人工知能（AI）で
不動産の投資収益などを予
測するシステムを作ったリ
ウエイズ（東京）が選ばれ
た。コンテストは北海道銀

行と沖縄銀行も主催に加わ
っており、近々北海道と沖
縄でも最終選考会を開く。

リアルエコノミー

北海道銀行（本店・札幌市中央区）は30日、ICT（情報通信技術）を用いたサービス、アイデアを競うビジネスコンテスト「X-Tech Innovation 2017（クロステック イノベーション 2017）」の最終選考会（ピッチバトル）を札幌市中央区の札幌ビューホテル大通公園で開催した。最優秀賞には、「トリプル・ダブリュー・ジャパン」（本社・東京都渋谷区）のウェアラブル型排泄予知機器「DFree」が選ばれた。

このビジネスコンテストは、昨年に続いて2回目の開催。昨年9月から募集を始め、書類選考と面接選考を経て最終選考会に残ったのは10社。会場となった札幌ビューホテル地下2階のピアリッジで各社が10分強の最終プレゼンテーションを行い、6人の選考委員が審査を行った。

この結果、トリプル・ダブリュー・ジャパンが最優秀賞に選ばれ賞金30万円が贈られた。審査委員長の里見英樹・一般社団法人北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会会長、メディア・マジック代表取締役は「審査員一同断トツで決まった。排便排尿に関して様々な悩みを抱えている人は多く、新しい取り組みとして非常に期待ができる」と話した。

同社の「DFree」は、超音波センサーで膀胱の変化を捉え、クラウド上で独自アルゴリズムによって分析、排泄のタイミングをスマートフォンやタブレットに通知する仕組み。

優秀賞には、「バーナードソフト」（本社・札幌市北区）のAiによる音の監視システム、「thee moment」（同・福岡市中央区）のスマートフォンを使った参加型イベントマップが選ばれ、それぞれ賞金10万円が贈呈された。

また、今回は特別賞として、車椅子利用者などが雪道の移動が簡単にできるようになるスマートモビリティの開発を進めている「norico project」（札幌市立大学大学院生安田創氏によるプロジェクト）に賞金10万円が贈られた。「X-Tech Innovation 2017」は、昨年、ふくおかフィナンシャルグループ（本社・福岡市中央区）と道銀が福岡と札幌で共同開催したが、今年は沖縄銀行（本店・那覇市）も加わった。九州地区は23日、沖縄地区は27日に最終選考会が行われている。

その他、一般紙には、「熊本日日新聞」、「沖縄タイムス」、「琉球新報」、ネットニュースで、「ICT教育ニュース」にて掲載があったもの。